

遺伝資源キュレーターについて

生物遺伝資源の研究や応用に必要とされる専門的技術を修得し、社会に対し安全と安心を提供する上で必要な生物多様性に関わる法規等の実務を理解する専門性の高い職業技術者「遺伝資源キュレーター」の養成を目的として、遺伝資源キュレーター育成プログラムを、宮崎大学と連携して実施します。

下記に掲げる本プログラムに関する科目の単位を修得し、博士前期課程を修了すれば、遺伝資源キュレーターとして認定証を交付します。(国家資格ではありません。)

なお、本プログラムは、平成18年度大学院工学科学研究科博士前期課程入学者からを対象とします。

遺伝資源キュレーター育成プログラムの履修について

履修区分欄に 印を付したものは必修科目を、 印を付したものは選択必修科目を示します。

遺伝資源キュレーターの認定には、学部の表に示す最低修得単位を修得し、かつ、大学院の表の科目のうちから、必修12単位、選択必修科目2単位以上の計14単位以上の単位を修得することが必要で大学院在学中に学部科目を履修することができます。

大学院の科目のうち、備考欄に「応用生物学専攻開講科目」の記載がある科目については、修了要件に含めることができます。ただし、応用生物学専攻以外の専攻の者については、他専攻の開講の授業科目となるため、修了要件に含めることができるのは、他専攻の授業科目すべてを含め6単位を限度とします。設備等の都合により、受講者数を制限することがあります。

受講するに当たり、交通費等について、一部自己負担がある場合があります。

他大学出身者で、本プログラムの履修を希望する者は、学務課でご相談ください。

遺伝資源キュレーター育成プログラム

(大学院)

授業科目	担当教員	単位数	履修区分	週授業時間数		備考
				1~2年次		
				春	秋	
生物遺伝資源学特論	山本雅敏・草野好司・松林 宏	2			2	1年次
遺伝資源と社会 - 法規 -	山本雅敏・北山雅彦・(池田佳代子)	2		2		1年次 集中
ゲノム構造機能学特論	山本雅敏・井上喜博	2		2		1年次 応用生物学専攻開講科目
昆虫生理学特論	某・齊藤 準	2			2	応用生物学専攻開講科目
昆虫工学特論	森 肇・小谷英治	2			2	応用生物学専攻開講科目
染色体工学特論	山口政光・伊藤雅信	2			2	応用生物学専攻開講科目
動物遺伝資源学実習及び演習	山本雅敏・草野好司・松林 宏・井上喜博	3			3	2年次 集中授業 学部の最低修得単位及び「生物遺伝資源学特論」「遺伝資源と社会-法規-」「ゲノム構造機能学特論」の既修得を要す。
植物遺伝資源学実習及び演習	山本雅敏・草野好司・某	3			3	2年次 集中授業(宮崎大学にて行う。) 学部の最低修得単位及び「生物遺伝資源学特論」「遺伝資源と社会-法規-」「ゲノム構造機能学特論」の既修得を要す。

「動物遺伝資源学実習及び演習」及び「植物遺伝資源学実習及び演習」は、7月~9月の間に集中で行います。

(学部)

科目の内容	最低修得単位数	本学での対応科目(平成15年度以降入学者)
遺伝学に関する科目	4	遺伝学、遺伝学、分子生物学、分子生物学、遺伝子工学
動物生理に関する科目	2	動物生理学、昆虫生理学
植物生理に関する科目	2	植物生理学、植物機能開発学、植物細胞工学
資源生物に関する講義科目	2	資源生物と環境、絹糸昆虫利用学、生物生産科学、蚕糸科学、無菌生物生産学
資源生物、生物生産に関する実験実習科目	4	生物生産学実習、資源昆虫生産学実験実習、応用生物学実験、応用生物学実験

平成14年以前に本学学部に入学者、及び他大学学部出身の学生については、対応科目を調整のうえ、通知します。